



①横手の雪まつり ②秋田竿燈まつり ③大曲の花火 ④きりたんぼ鍋



秋田犬  
〔(一社) 秋田県観光連盟  
提供〕

# スポーツの秋田、 食欲の秋田、 芸術の秋田

ただ、もう冬ですが...

一般社団法人 秋田県不動産鑑定士協会 石塚 充

## 1. はじめに

まず、みなさまにお知らせしたいことがございます。筆者がこの特集を寄稿したときは11月上旬で季節が秋であったため、「スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋」にかけて上記題名にしたのですが、掲載時は1月で、もう冬であることをご了承ください。なお、日本は春夏秋冬の四季がはっきりしている国ですが、春夏秋冬の文字が県名に入っている県は、全国で秋田県だけです。そのような秋田県について、上記題名に即して、ご紹介したいと思います。

## 2. 秋田県の概要

秋田県は、東北地方の北西部、北は青森県、南は山形県、東は岩手県、南東は宮城県にそれぞれ接しており、西は日本海に面しております。広さは、11,636.28km<sup>2</sup>、日本で6番目に広い面積を有しております。主な地形別の比率を見ると、山地約58%、低地約21%で、全国平均（山地約61%、低地約14%）と比べて、山地が狭く低地が広いことがわかります（昭和57年度国土数値情報作成調査による）。低地が多いことが水田等の農地を多くさせ、米を中心とした

国内有数の農業県である要因となっております。人口は、平成27年国勢調査によると1,023,119人で、前回調査と比べ5.8%も減少しており、昭和35年以降、昭和55年を除き毎回減少傾向で、近年は減少率が拡大しております。特に、郡部の人口は9.0%も減少しており、過疎化の進行が顕著にあらわれております。



(秋田県の位置)

## 3. スポーツの秋田

昨年、第100回夏の全国高等学校野球選手権大会において秋田県代表の「金足農業高校（ちなみに同校は秋田市最北部にある高校です）」が準優勝したことは、まだ記憶に新しいと思います。秋田県内はもちろん全国的にも「金足農業高校」が話題となり、「金農フィーバー」とも呼ばれました。今回は高校野球で注目された秋田ですが、実はスポーツ界においては、隠れ強豪県であることはご存知でしょうか。特に有名なのは高校バスケットボールの「能代工業高校」です。「能代工業高校」は、国体、

インターハイ、選手権大会の3大会で計58回の全国制覇を誇っている高校バスケットボール界のレジェンド校です。同校が2016年インターハイ県予選で敗退し、インターハイ出場を逃したときは全国ニュースで報じられるぐらいすごい部なのです（県予選で負けただけなのにこの扱い）。卒業生には田臥勇太選手などがおります。高校ラグビー界においても、「秋田工業高校」があります。「秋田工業高校」は、全国高等学

校ラグビーフットボール大会（通称花園）で通算15回の優勝（ちなみに2位は7回）を誇る古豪です。かつては岩手の社会人ラグビー「新日鉄釜石」（日本選手権7連覇した強豪）と並び東北のラグビー界をけん引しておりました。しかし、平成になってからは私立校に押され全国優勝から遠ざかるどころか、全国大会出場もままならない状態にあることは非常に残念です。

2020年東京オリンピックにちなんで、都道府県別夏季オリンピックメダル獲得数ランキング（個人種目のみ、初出場からリオ五輪前まで）を見ると、1位が東京と大阪が同数の28個、3位が福岡の23個、そしてなんと4位が秋田

の20個なのです。東京、大阪、福岡が大都会であることを考えると、なかなかの数字だと思います。今回の東京オリンピックで秋田として注目されるのは「北都銀行」のバドミントン部で、有力選手がそろっておりメダル獲得も期待されています。みなさまもその際は注目していただければと思います。

これらのことからみても、秋田県は隠れスポーツ大国なのです。なお、初めに高校野球のお話をいたしました、プロ野球界でも投手としてMVP 3回の山田久志さんや三冠王3回の落合博満さんも秋田県出身であります。



金足農業高校の校歌斉唱  
(秋田魁新報社提供)

#### 4. 食欲の秋田

食欲の秋田と銘打ってございますので、食べ物についてご紹介したいと思います。今回ご紹介する食べ物は、「納豆」です。秋田で納豆？と思う方も多いと思いますが、このような説がございます。平安時代後期、後三年の合戦(1083

年～1087年)の際、源義家が豪族・清原家衡に戦いを挑みました。ところが現在の秋田県横手市付近で大雪に見舞われ、足止めされてしまいます。困った源義家は、付近の農民に煮大豆を供出させました。時間がないので藁で作った俵に入れ、行軍しているうちに香りを放ち、糸



横手市にある  
「納豆発祥の地」の石碑

を引くようになっていました。恐る恐る食べてみたら美味しかったので食用とした、供出した農民もこれに気づき食用とした、という説が残されています。これは今でも横手市にある石碑で確認できます。煮た豆を俵に入れたら発酵して納豆になったという、まさに偶然の産物だという歴史です。ただ、同様な説が茨城県にも存在するため、どちらが本当なのかを窺いすることはできません。ちなみに秋田県能代市檜山には「檜山納豆」という名物があるとともに、納豆発祥の石碑があるところには全国的に有名な納豆メーカーの本社もございます。なお、このメーカーは業務用納豆（ほとんどがひきわり納豆です）で、国内シェア7割を占める実績を持っており、ほとんどの方が回転すし等で食べたことがあると思います。ですので、納豆巻きを食べる際は、この納豆は秋田県産だと思って過言ではないと思います。

#### 5. 芸術の秋田

次に芸術の秋田についてご紹介したいと思います。

秋田は重要無形民俗文化財が全国で最多登録数を誇るなど他には珍しい文化が存在いたします。ただ今回は無形なものではなく、「秋田蘭画」という有形なものについてお話いたします。

「秋田蘭画」とは、江戸時代に、「小田野直武」（以下敬称省略）など秋田の武士たちが、西洋の絵に影響を受け、それまでの日本にはなかった新しい描き方の絵を生み出しました。「小田野直武」とは、日本画の世界では相当有名なお方なのですが、皆様も直武の絵を一度は見ていただきたいと思います。どこでかと言うと、「解体新書」の挿絵です。「解体新書」とは、オランダ医学の本を、医師の「杉田玄白」が日本語に訳した本です（皆様当然ご存知だと思います）。「解体新書」の挿絵を描いたのが「小田野直武」です。本の中身はわからないまでも、挿絵は教科書等で見たことがあるはずですよ。

その直武たちは、西洋から伝わってきた描き方である「遠近法（近くのは近くに、遠くのは遠くにあるように見せる描き方）」や「陰影法（影をつけてものを立体的に見せる描



「不忍池図」小田野直武 作(秋田県近代美術館蔵)

き方)」を取り入れました。このように西洋画の手法を取り入れた構図と純日本的な画材を使用した和洋折衷絵画を「秋田蘭画」と呼ばれております。「秋田蘭画」の画家は、直武の他に、「佐竹義敦」、「佐竹義躬」などが代表的な方です。なお、「佐竹義敦」は秋田を治めた久保田藩主で、「佐竹義躬」は現在の秋田県知事「佐竹敬久」のご先祖にあたる方です。

このような「秋田蘭画」ですが、天明年間には廃れてしまいました。しかし、「秋田蘭画」の画法の一部（特に遠近法）は後世の浮世絵に大きな影響を与えたとされています。もし、絵に興味がある方は、横手市にある秋田県立近代美術館で定期的に公開されていますので、ぜひご来館くださればと思います。

## 6. 秋田県の見どころ

「スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋」にかけて、秋田県をご紹介しますが、それ以外

に秋と言ったら紅葉ですので、掲載時はもう冬ですが、紅葉の名所をご紹介します（今ご紹介したら、今年の秋には間に合いますので）。

秋田の代表的な観光地といたら、「角館」「田沢湖」などがあります。「角館」「田沢湖」のある仙北市に「抱返り溪谷」という観光スポットがございます。「抱返り溪谷」は、田沢湖や角館を流れる玉川中流にある全長約10kmの溪谷で、東北の耶馬溪と称され、兩岸の原生林と岸壁にかかる滝や独特の青い溪流が美しく新緑と紅葉の名所でもあります。溪谷に着いて目に付くつり橋「神の岩橋」からの眺望は抜群で、溪谷入り口から徒歩30分ほどのところにある「回顧（みかえり）の滝」は溪谷一番の名所であり、100mほど通り過ぎて見返ると、緑深い絶壁の間から落下する滝は二段となり、名画のような美しさを誇ります。また、溪谷の両岸にはアカマツ、ケヤキ、サワグルミ、ミズナラ等多種多様な樹種からなる自然林が広がっておりま



抱返り溪谷「回顧（みかえり）の滝」（仙北市観光課提供）

す。そのため、紅葉シーズンにかかわらず、新緑シーズン、夏場でも楽しめる名所です。

「抱返り溪谷」へは、JR田沢湖線「神代」駅からタクシーで10分、国道46号線から秋田県道50号「大曲田沢湖」線経由で約10分のところがございます。もし、秋田に来る際は一度訪れてみたらいかがでしょうか。

また、「抱返り溪谷」のほかにも、隠れ紅葉スポットで、「きみまち阪立公園」（能代市二ツ井地区）、「岨谷峡」（秋田市河辺地区）などもなかなかところですので、合わせてお伝えしておきます。

## 7. 秋田の地価動向

秋田県の全用途（林地を除く）の平均価格及び平均変動率（地価調査ベース）は、16,500円/㎡（16,800円/㎡）及び▲2.5%（▲3.0%）でした〔（）内は、前年度の平均価格及び平

均変動率。以下同じ〕。県全体の平均変動率は、平成10年から21年連続して下落しています。

住宅地の平均価格は、13,400円/㎡（13,500円/㎡）、平均変動率は▲2.4%（▲2.9%）と縮小したものの、平成11年から20年連続して下落しています。平均変動率を地域別に見ると、秋田市では▲0.4%（▲1.2%）、秋田市以外の地域では▲2.8%（▲3.3%）でした。商業地の平均価格は、25,100円/㎡（25,500円/㎡）、平均変動率は▲2.6%（▲3.1%）と住宅地と同様に縮小したものの、平成5年から26年連続して下落しています。平均変動率を地域別に見ると、秋田市では▲0.4%（▲1.1%）、秋田市以外の地域では▲3.0%（▲3.4%）となっています。

秋田市中心部では前年度と同価格の地点や価格の上昇している地点が広がりつつありますが、過疎化の著しい集落地域では依然として下落基調が続いており、地価の二極化が進行しています。



①高浜海水浴場（五島市） ②日本二十六聖人 ③銅冠山から見た長崎港と長崎市街地 ④カステラ

## 「ちゃんぽん」だけじゃなか！ 歴史めぐりもよかばい、長崎

公益社団法人 長崎県不動産鑑定士協会 中村 圭吾

### 1. はじめに

長崎県と聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。「ちゃんぽん」、「皿うどん」、「カステラ」…。食いしん坊の私は、食べ物のことが真っ先に頭に浮かびますが（そして皆さんもきっと同じだと思いますが）、長崎は歴史的に大変興味深い土地でもあります。今回は、そんな皆さんよくご存じの「食」はいったん置いておいて、歴史的にみた長崎県の魅力をご紹介します。

### 2. 長崎県の地理

長崎県の人口は約137万人、世帯数は約56万世帯。九州の西北部に位置し、その県域は東西213km、南北307kmに及びます。陸地は平坦地に乏しく、いたるところに山岳、丘陵が起伏し、海岸線は多くの半島、岬と湾、入江から形成されています。

島の数は971（海上保安庁調べ）で、全国第1位です。海岸線延長は4,183km（海岸統計平成28年度版）と北海道の4,460kmに次いで第2位ですが、面積比では第1位（第2位は沖縄県）と、如何に島が多く海に囲まれた県であるか分かります。

漁業環境にも恵まれ、「プライドフィッシュ」は、真あじ（ごんあじ・野母んあじ）（春）、長崎のイサキ（夏）、長崎とらふぐ（養殖トラフグ）（冬）となっています。

また、朝鮮半島にも近く、長崎県北西部の離島・対馬（つしま）は、天気が良ければその最北端の岬から対岸の韓国・釜山が見えるほどです。

### 3. 長崎の歴史

長崎は歴史的に見て、日本の中でも重要な役割を果たしてきました。地理的に、東シナ海を挟んで中国大陆や朝鮮半島に面していることから、船舶交通の要衝であり、軍事的な要地でもありました。

#### 【長崎の歴史は、海外との交流にあり】

長崎県北西部に浮かぶ二島、壱岐・対馬は、古代から朝鮮半島との交流が盛んで、大陸の文化や技術を日本に伝える中継地でした。壱岐・対馬を経由して中国大陆に至るルートは初期の遣唐使船の航路でもありましたが、白村江の戦い（663年）以降、朝鮮半島との関係が悪化してからは、北側のルートを避け、長崎県西部の五島列島を経由する航路が「遣唐使の道」として使われるようになりました。かの最澄や空海が乗った遣唐使船も、五島列島最大の島・福江島に寄港した後、唐へ向かっています。空海は、唐で学んだ後、帰国の途中でも福江島に立ち寄って（嵐に遭遇して漂着したとか）、真言宗最初の布教活動を行ったと言われており、その際に拠点とされた大宝寺は「西の高野山」とも呼ばれています。

#### 【長崎とキリスト教】

長崎にキリスト教が伝わったのは、1550年のこと。長崎県の平戸でフランシスコ・ザビエルの一行が宣教活動を行ったのが始まりです。

その後、ポルトガル商人が貿易の拠点を移していく中で、大村氏当主・大村純忠は、自領にある横瀬浦（現在の長崎県西海市）の提供を申し出ました。そして純忠はキリスト教を学んだ後、洗礼を受け、日本初のキリシタン大名となります。その後、戦火を被った横瀬浦に代わって、1570年に純忠がポルトガル人に提供したのが、当時まだ寒村だった長崎（長崎港周辺の土地）です。1571年に開港された長崎港は、ポルトガル船の寄港地となり、以降、多くの教会堂が建てられ、「日本の小ローマ」といわれるまでの繁栄を見せました。

大村純忠が長崎の統治権をイエズス会に寄進したことでイエズス会領となった長崎は南蛮貿易で栄えていましたが、キリスト教に対して態度を硬化させていった豊臣秀吉は、この地を没収し、直轄領とします。この方策は江戸幕府にも引き継がれ、1605年に、長崎は幕府の直轄地（幕領）となりました。

#### 【西洋に開かれた日本唯一の窓口、出島】

江戸時代のいわゆる「鎖国」政策の下では、長崎は西洋に開かれた唯一の窓口でした。1636年に築造された「出島」には、オランダ東インド会社の商館が置かれ、最新の海外情勢や西洋の文物が日本へ持ち込まれました。ちなみに、対馬藩は朝鮮王朝と、薩摩藩は琉球王国と、松前藩は蝦夷地（アイヌ）との交易がそれぞれ認められ、それらを通じて日本は中国市場と結ばれていたといえますから、長崎が「海外」貿易唯一の窓口というのは語弊があるでしょう。しかし、「西洋」に開かれていたのは長崎のみで、他の3口（薩摩、対馬、松前）はそれぞれの担当する国や地域との関係しか許されていませんでした。長崎は幕府直轄領として将軍の代理である長崎奉行監督の下、国際関係全般（といってもオランダと中国）を扱う権限をもつ特権都市だったのです。



空海記念碑「辞本涯」(五島市三井楽町)



出島 (長崎市)



旧グラバー住宅 (長崎市・グラバー園)



原城跡 (南島原市)

### 【日本が変わる大転換期、長崎の地には…】

開国後に長崎に来航した英国商人トーマス・ブレイク・グラバーは、幕末から明治初期の長崎で造船や採炭など幅広い事業を展開し、日本の近代化に大きく貢献しました。武器商人でもあり、幕末の動乱期に乗じて討幕派の藩、佐幕派の藩・幕府問わず武器や弾薬を販売したことから「死の商人」と呼ばれることもあるグラバーですが、明治維新に大きな役割を果たしたのは間違いありません。1865年に長崎で日本初の商社といわれる亀山社中を結成した坂本龍馬も、グラバーから薩摩藩名義で武器や蒸気船を購入。長州藩への売買を仲立ちし、倒幕の原動力となる薩長同盟の契機を長崎でつくりました。

## 4. 観光

そんな歴史をもつ長崎ですから、観光資源も、歴史に関するものが数多くあります。

中でも注目なのが、近年、立て続けに世界文化遺産に登録された、以下の遺産群です。

### 【明治日本の産業革命遺産】

幕末からたった半世紀という異例の速さで、非西洋地域で初めて産業の近代化を成し遂げた日本。その軌跡である資産群が、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として2015年の第39回世界遺産委員会でUNESCOの世界遺産リストに登録されました。その構成資産は山口・鹿児島・静岡・岩手・佐賀・長崎・福岡・熊本の8県に点在し、そのうち長

崎エリアの構成資産は、①小菅修船場跡、②三菱長崎造船所 第三船渠、③三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン、④三菱長崎造船所 旧木型場、⑤三菱長崎造船所 占勝閣、⑥高島炭鉱、⑦端島炭鉱、⑧旧グラバー住宅の8つとなっています。

イギリスの産業技術を日本に伝えたグラバー。そして彼と深いつながりのある三菱財閥。長崎の構成資産は、彼らの残した資産といえます。①の小菅修船場跡は、その船架がそろばん状に見えたため「ソロバンドック」の名で親しまれていますが、この修船場はグラバーが薩摩藩士らと計画して建設しました。グラバーは⑥の高島炭鉱についても、佐賀藩との共同出資で開発にあたっています。高島炭鉱は後に三菱財閥が買収しますが、その創業者・岩崎弥太郎、そして弟で第2代総帥の岩崎弥之助ともグラバーは親交が深く、自身の商会が破産した後も、炭鉱の所長として、また財閥の相談役として活躍しました。

余談ですが、グラバーの妻・ツルは、プッチーニ作曲のオペラ、そしてその原作であるジョン・ルーサー・ロングの短編小説『蝶々夫人 (マダム・バタフライ)』のモデルとも言われています。結論は出ていないようですので、興味がある方は是非その謎に挑戦してみたいはいかがでしょうか。

⑦の端島炭鉱があった島・端島は、その外観から、通称「軍艦島」の名で知られています。現在は廃墟となっており、映画『進撃の巨人』の撮影ロケ地の一つとなったことでも有名です



軍艦島 (端島)

が、上陸ツアーも体験できます (現在は台風の影響で上陸は中止されていますが、2019年2月1日には上陸再開予定とのことです)。

### 【長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産】

この遺産群は、キリスト教禁教による宣教師不在の中、「潜伏キリシタン」が長崎と天草地方の各地において厳しい生活条件の下、神道や仏教などの日本の伝統的宗教や一般社会と共生しながら信仰を続け、独特の文化的伝統を育んだことを物語る貴重な証拠となっています。長崎県と熊本県 (天草地方) に残る12件の構成資産からなり、2018年、第42回世界遺産委員会において登録が決定されました。

潜伏キリシタンの文化的伝統が形成される契機となる出来事が考古学的に明らかにされている原城跡、潜伏キリシタンが密かに信仰を維持するために様々な形態で他の宗教と共生を行った集落 (平戸の聖地と集落・天草の崎津集落・外海の出津集落・外海の大野集落)、信仰組織を維持するために移住を行った離島部の集落



大浦天主堂

(黒島の集落・野崎島の集落跡・頭ヶ島の集落・久賀島の集落・奈留島の江上集落 (江上天堂とその周辺))、潜伏キリシタンの伝統が終焉を迎える契機となった出来事が起こり、各地の潜伏キリシタン集落と関わった大浦天主堂から構成されています (引用:文化庁発表資料「資産の概要」)。

「潜伏キリシタンの文化的伝統が形成される契機となる出来事」。文化庁の資料をそのまま引用したため、分かりにくいかもしれませんが、これは「島原の乱 (島原・天草一揆)」のことを指しています。弾圧されたキリシタンの反乱と百姓一揆が絡み合って起こったといわれるこの出来事で、主戦場だったのがこの原城でした。この反乱以降、幕府のキリスト教弾圧は徹底さ

れ、カトリック信徒は深く潜伏することを余儀なくされます。彼らは長崎と天草地方の半島や離島において、「潜伏キリシタン」となって独特の文化的伝統を形成していったのです。

## 5. 原爆

長崎といえば忘れてはならないのが、第二次世界大戦末期の長崎市への原子爆弾投下です。原爆といえばヒロシマ、のイメージが強いと思いますが、世界で初めて核兵器が実戦使用された都市が広島市であれば、長崎市は人類史上最後に核兵器が実戦使用された都市です。

### 【平和公園】

平和公園は、原爆の実相を訴えるとともに、世界平和と文化交流のための記念施設として、原子爆弾落下中心地（爆心地）とその北側の丘を含めた地域に整備されました。長崎市ウェブサイトによると、平和公園は東地区の「願いのゾーン」「祈りのゾーン」「学びのゾーン」と西地区の「スポーツのゾーン」「広場のゾーン」の5つのゾーンで構成されていますが、西地区はどちらかという市民の日常生活向けのエリアなので、ここでは東地区の3つのゾーンを紹介します。

「願いのゾーン」として位置づけられる祈念像



平和祈念像

地区は、平和祈念像、平和の泉、世界各国から寄贈されたモニュメントなどが設置され、平和を願う場にふさわしい空間として整備されています。長崎市民が「平和公園」と言った場合は、この場所を指します。毎年8月9日には、祈念像前の式典広場で平和祈念式典が行われています。

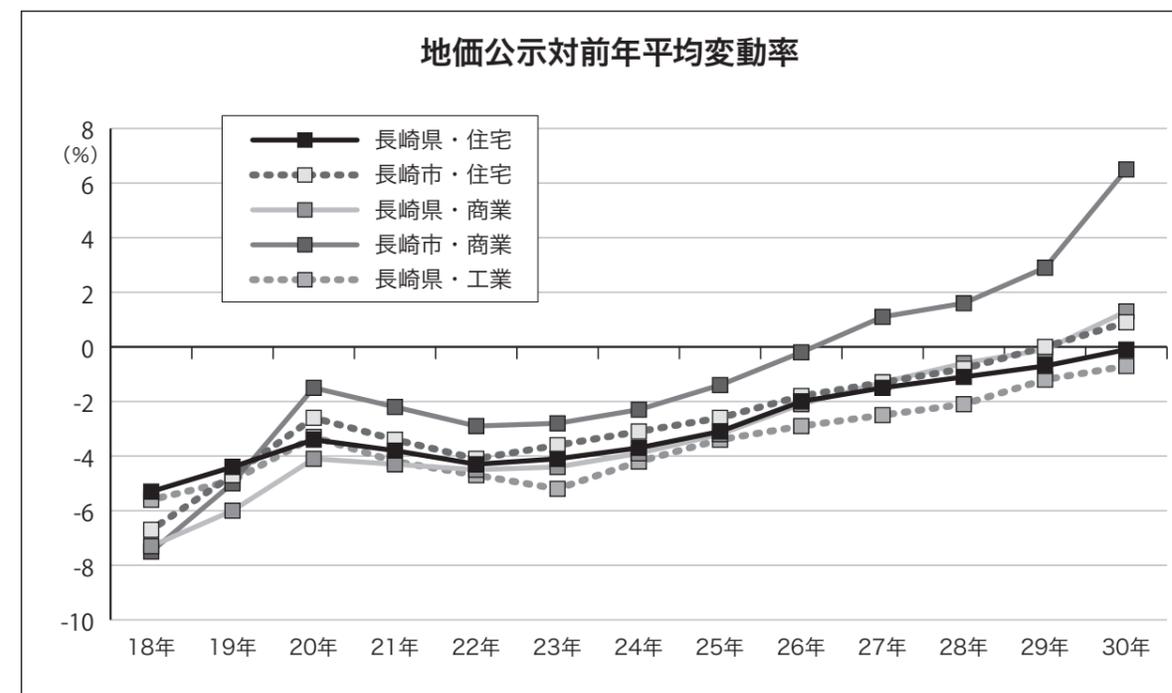
このゾーンの中心は、やはり、長崎市民の平和への願いの象徴にもなっている平和祈念像でしょう。像の高さは32尺（9.7メートル）、台座を含めると13メートルを超え、4階建のビルに匹敵します。作者の長崎県出身の彫刻家・北村西望氏は、この像を神の愛と仏の慈悲の象徴とし、天を指した右手は“原爆の脅威”を、水平に伸ばした左手は“平和”を、軽く閉じた瞼は“戦争犠牲者の冥福を祈る”という想いを込めました。

原爆落下中心地地区は、「祈りのゾーン」として聖域化を図り、被爆の史実を伝え、被爆により亡くなられた方々のご冥福を祈る空間として整備されています。通常、「原爆落下中心地公園」とか「爆心地公園」と呼ばれています。

「学びのゾーン」として位置づけられているのは、長崎原爆資料館地区です。長崎原爆資料館では、原爆投下直後の街の惨状を再現し、被爆の状況を写した写真や被爆した品々が展示されています。



原爆落下中心地



## 6. 地価動向

平成30年地価公示によると、長崎県における対前年平均変動率は、住宅地で▲0.1%（前年▲0.7%）、商業地で+1.3%（前年▲0.1%）、工業地で▲0.7%（前年▲1.2%）と、住宅地・工業地は下落幅が縮小し、商業地はプラスに転じています。商業地の最高価格地点は長崎5-8（長崎市浜町）で924,000円/㎡（+1.2%）、住宅地の最高価格地点は長崎-16（長崎市上西山町）で200,000円/㎡（+9.9%）となっています。

「2.長崎県の地理」にも述べたように、長崎（特に長崎市）は平坦地に乏しいため、その希少性から他県と比べて平坦地の地価（と家賃）は割高の傾向にあるようです。そして、利便性の良い平坦地等の地価が上がっている一方で、利便性の劣る地域の地価は下がり続けています。特に、傾斜地の中でも車が通行できない土地の需要は極めて低く、下落幅が大きい状況が続いています。

## 7. おわりに

かなり歴史に偏った紹介記事となってしまいました。しかし、歴史は言わば人間の行動の結果の記録であり、そこには何らかの原因・背景があります。それらに思いを馳せるのも歴史の楽しみ方の一つだと思います。不動産鑑定士は、不動産に関する人間の行動原理を分析し、判定するのが仕事ですから、歴史を考えるのと通ずるものがあります。そういう意味でも、鑑定士には歴史好きが少なくないのではないのでしょうか。

と、理屈っぽいのは抜きにして、長崎の歴史で知的好奇心を満たしに、そして「長崎ちゃんぽん」「卓袱料理」、新鮮な海の幸など、「美味しいもの」でおなかを満たしに、ぜひ一度（何度でも）、長崎に遊びに来てください。

写真提供：(一社)長崎県観光連盟  
教会の写真掲載に当たっては大司教区の許可をいただいています。